

「水栓金具」製品分類別基準（PCR番号:CD-01）

この基準はエコリーフプログラム実施用に作成されたものです。事務局の承諾無く、本内容を他の目的に使用することを禁止致します。

No	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
1	PCR 設定の前提	製品	定義	水栓金具「浴室用シャワー水栓、洗面水栓、台所水栓」 (止水栓、ボールタップ、フラッシュバルブ、浴槽用水栓は除く。)
2			範囲	1. 最小販売単位に含まれる本体 2. 上記機能を満たすための付属品類 ・包装 ・マニュアル ・取付金具・フック・水受け等
3		ステージ	範囲	全ライフサイクルステージ(本プログラムで規定する全ステージ:製造、物流、使用、廃棄・リサイクル)を対象とする。 施工、据付は対象外とする。
4	製品データ シート (LCI入力 データ)	製造ステージ 情報 (製品情報)	製品材料 又は、 原料構成	1. 部品等 A 扱いの部品(加工、組立負荷を自身で把握する部品) 鋳造部品を部品等 A 扱いとする。社外品鋳造部品は実測データに基づく算出を基本とするが、データ精度・カバー率の低下が想定される場合は、社外品であっても社内品と同等扱いとし、自社データに基づいた算出としてよい。 2. 資源投入量は、製品となった段階の材料質量とし、製品質量の 90 %以上の材料を種類別に分類、残りは比例配分して 100 %換算する 3. 製品データシートに記載する材料名は普通鋼、SUS、アルミニウム、銅合金(銅含む)、その他金属、PP、ABS、その他熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、ゴム、ガラス、紙、半導体基板の13項目とする。それ以外のものは原単位名を記載する。 4. オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 「間接影響」範囲とする工程 「間接影響」範囲内の控除・負荷
5			投入消費 排出される 物質とエネル ギー	1. 投入・消費項目 電力、A 重油、軽油、灯油、ガソリン、LNG（都市ガス）、LPG、都市用水、工業用水、地下水 2. 排出項目 特定しないが各社で重要と判断したものを記載する。また副産物、副資材は計上 (注:製造サイトで投入されるが製品と共に出荷されない資材を副資材と定義する。)
6		物流ステージ 情報	製品の輸送 条件	1. ユーザーまでの輸送手段、積載率は、申請各社が設定するモデルに基づく。但し、トラック輸送積載率は資源エネルギー庁編の「荷主のための省エネ法ガイドブック」(2006年)にある62%を用いてもよい。 2. 国内の輸送距離は500kmとして算定する。 3. 海外生産の場合の海外から国内への製品輸送負荷は海上輸送のみ計上し、総移動距離は各社の設定とする。各社の設定とする場合には、実績を踏まえて、エビデンスを備えておく。 4. 包装の廃棄・リサイクルに伴う輸送は8項「廃棄・リサイクル」に計上する。

No	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
7		使用ステージ 情報	製品の使用 条件	<p>1. 浴室用シャワー水栓(家庭での使用を前提とする)</p> <p>使用条件*1 5分/回 × 1回/人・日(手元止水スイッチなし)、 4分/回 × 1回/人・日(手元止水スイッチあり)、 42℃の水を使用、毎回捨て水あり</p> <p>使用人数 4人家族 年間使用日数 365日/年 捨て水条件 2ハンドル水栓:11.2L/回、サーモスタット水栓:5.9L/回 使用流量 本項「5. モニター評価」の条件を満たすモニター評価に基づいて使用流量を設定すること。ただし一般流量 10L/分 を用いてもよい。</p> <p>昇温条件 27deg(15℃の水を42℃に昇温) 給湯源:セントラルガス給湯、ガス種:都市ガス 13A、 給湯器熱交換効率:80%*1</p> <p>*1 省エネ防犯情報提供事業ガイドラインに基づく。</p> <p>2. 台所用水栓(家庭での使用を前提とする)</p> <p>使用条件 「つけ置き」と「洗い・すすぎ」を毎回実施。40℃の水を使用、 給湯器が隣接していると想定し、捨て水なし 「つけ置き」と「洗い・すすぎ」(食器点数と小物点数に比例) の合計値で手洗い水量を計算*1 「つけ置き」:10L/回 「洗い・すすぎ」:食器 13.5秒/点、10点/人・回 小物 5.5秒/点、4点/人・回</p> <p>使用人数 4人家族 食器洗い回数 3回/日 年間使用日数 365日/年 使用流量 「洗い・すすぎ」については、本項「5. モニター評価」の条件を満たすモニター評価に基づいて使用流量を設定すること。ただし食器・小物ともに一般流量 6L/分 を用いてもよい。</p> <p>昇温条件 25deg(15℃の水を40℃に昇温) 給湯源:セントラルガス給湯、ガス種:都市ガス 13A、 給湯器熱交換効率:80%*2</p> <p>*1 日本電気工業会のガイドを参考とした。 *2 省エネ防犯情報提供事業ガイドラインに基づく。</p> <p>3. 洗面所用水栓(家庭での使用の場合)</p> <p>使用条件 2回/人・日、40℃の水を使用、毎回捨て水あり 使用時間は本項「5. モニター評価」の条件を満たすモニター評価に基づいて設定すること。ただし以下の一般使用時間を用いてもよい。 2ハンドル水栓:6分/回、 シングルレバー水栓:4分20秒/回*1</p> <p>使用人数 4人家族 年間使用日数 365日/年 捨て水条件 シングルレバー水栓 10.1L/回、2ハンドル水栓 11.2L/回 使用流量 本項「5. モニター評価」の条件を満たすモニター評価に基づいて使用流量を設定すること。ただし一般流量 9L/分 を用いてもよい。</p> <p>昇温条件 25deg(15℃の水を40℃に昇温) 給湯源:セントラルガス給湯、ガス種:都市ガス 13A、 給湯器熱交換効率:80%*2</p> <p>*1 シングルの一般使用時間としては、こまめに出し止めするので10秒×10回 on/off 分の節水が図れるものとする。 *2 省エネ防犯情報提供事業ガイドラインに基づく。</p>

No	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
7		使用ステージ 情報	製品の使用 条件	<p>4. 洗面所用水栓(パブリックでの使用の場合)</p> <p>使用条件 5回/人・日、温水使用無し 使用回数 100回/台・日*1 年間使用日数 265日/年 使用流量 本項「5. モニター評価」の条件を満たすモニター評価に基づいて使用流量を設定すること。ただし一般流量 2.9L/回*2を用いてもよい。</p> <p>*1 男性:60人(器具数 2台)、女性:40人(器具数 3台)の1台あたりの平均使用回数 *2 ハンドル式水栓、水石けんを使用した1回当りの洗浄水量</p> <p>5. モニター評価</p> <p>本項 上記1～4の各種水栓金具において、節水型についてモニター評価を実施する場合には下記に従う。</p> <p>(1) 下記内容を含む手順を記した文書を社内に有していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被験者は、成人男性5名、成人女性5名以上確保する。但し、商品の特性上、男女どちらかのみ使用する場合は、同性を10名以上確保すること。また、小人も対象に含まれる商品の場合には被験者を成人に限定しない。 ・ 実際の使用現場を想定した装置や設備にて行うこと。吐水は各々の行為に適した温度に設定すること。 ・ シャワーについて評価する場合は、吐水を42℃に設定し、実際に被験者がシャワーを浴びること。 ・ モニターにより収集したデータを用いて使用水量あるいは使用時間を算出するための、予め定められた算定方法。 <p>(2) モニター評価の方法の選択肢としては下記が含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一連の使用動作を完了するまでに要する水量と時間から各被験者の使用流量を求め、全試行データの平均値を当該製品の使用流量とする方法。 ・ 基準製品の使用感に対する、使用流量を固定した当該製品の使用感を被験者が採点し、その設定流量が使用流量として妥当であるかを決定する方法。 <p>(3) モニター評価の設定温度を使用ステージ情報の解説欄に記載する。</p> <p>6. 水栓での水使用量=排水量とし、上下水道の環境負荷としても算出する。</p> <p>7. 消耗品の使用条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本機能を10年間維持して動かすために必要となる付帯物品を消耗品と定義する。 ・使用量等は、申請各社が設定する自社の実績に基づく標準モデルに従う。 <p>8. メンテナンス</p> <p>商品の性格上、使用ステージでのメンテナンスは想定しない。</p> <p>9. 使用期間</p> <p>10年とする。</p>

No	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
8	製品 データシート (LCI 入力 データ)	廃棄・リサイ クルステージ情 報	製品の廃棄・ リサイクル条 件	<p>1. シナリオの設定 別紙『使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ』を採用する。 非回収ルートは、「一廃処理シナリオ」を採用。 回収ルートは、各社で輸送を含むシナリオを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> リユースシナリオ リサイクルシナリオ 材料別リサイクル率(=η)は、各社で設定する。 非リユース/非リサイクルの産廃処理シナリオ <p>2. 控除のシナリオ 別紙『使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ』を採用する。</p> <p>3. リサイクル、リユースの可能性の判定基準 本体に関しては、判定基準は各社で、個別に定める。</p> <p>4. 製品回収率 ・本体に関しては、「伸銅の回収率:47%(2004年、日本伸銅協会データ)」 を用いてもよい。</p> <p>・段ボールのリサイクル率データは、全国段ボール工業組合連合会が整理・ 公表している値を業界標準値として採用する。なお同公表値は年々更新 されるため、本 PCR ではエコリーフ発行時点の最新版を採用するものと する。(2004年度・・・109.2%)但し、100%を超える場合は100%として計 算する。</p> <p>5. オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当 と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証 の対象となる。 「間接影響」範囲とする工程 「間接影響」範囲内の控除・負荷</p>
9	製品環境情 報 データシート (PEIDS)	インベントリ分 析	LCI計算式	オープンリサイクル/リユースを含む場合は間接影響と直接影響に分離して計算 し、このうち間接影響分を「リサイクル効果」として表現する。PEIDS では間接影 響の合計を「リサイクル効果」欄に記載する。
10		インパクト評 価	カテゴリ追加	PEIDS では「オゾン層破壊」「富栄養化」は対象としない。
11	内訳 データシート (製品データ シート関連)	データ加工	アロケーション	統一せず各社、適宜設定する。
12		データ収集	収集範囲	<p>1. 対象サイト、工程を収集範囲とする。</p> <p>2. 生産安定時のデータを使用する。</p> <p>3. 季節変動のある空調等は年平均、半年平均とする。</p> <p>4. 照明・空調等の固定部分は工程設定時の計画生産量当りとする。</p> <p>5. 生産量に比例する組立用の電力や廃棄物は生産量当りで換算する。</p> <p>6. 新製品等は計画(設計)値でも可とするが、実績が出たら置換する。</p>
13			カットオフ ルール	<p>1. カットオフなしを基本とする。</p> <p>2. カットオフを適用する場合は、その内容と根拠を明確にする。</p>
14	内訳データ シート (PEIDS関 連) データベ ース	製品環境情 報 製品仕様 データ公開内 容	共通原単位 の選定	<p>1. 共通原単位から選択する。</p> <p>2. エチレンプロピレンジエンゴム(EPDM)には代用原単位として既存のエコリー フデータセットからポリプロピレン(PP)のものを用いる。</p>
15			原単位の追 加	なし
16			特性化係数 の追加	なし

No	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
17	製品環境情報	製品仕様	—	<p>水栓タイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> 水栓の種類:浴室用シャワー水栓、台所用水栓(家庭での使用を前提とする)洗面所用水栓(家庭での使用の場合)、洗面所用水栓(パブリックでの使用の場合) 機能区分 :自動水栓、自閉水栓、定量止水など その他機能:泡沫タイプなど 一般地/寒冷地
18		データ公開内容	—	<ol style="list-style-type: none"> 記載項目 必須項目として規定(ガイドライン)されている「温暖化負荷、酸性化負荷、エネルギー消費量」を記載することとし、選択項目は記載自由とする。 対象ライフサイクルステージ 記載自由とする。 使用条件の設定 浴室、台所、洗面所用水栓: <ul style="list-style-type: none"> 家庭での使用を前提とする 使用人数 4人家族 使用日数 365日 使用温度 (シャワーの場合)42℃、(その他の家庭用水栓の場合)40℃ 洗面所用水栓: <ul style="list-style-type: none"> パブリックでの使用を前提とする 使用条件 5回/人・日(男女共通) 使用人数 男性:60人 女性40人 使用日数 265日 器具数 男性:2台 女性:3台 温水使用なし <ul style="list-style-type: none"> * 器具1台あたりの消費量(水、電気など)の算出は、上記条件における1台あたりの平均値であることを記載する 使用期間(10年間)を記載する。 表現方法 ステージ毎の環境負荷は棒グラフで表現する。 オープンリサイクル/リユースを含む場合は 「リサイクル効果」は実際に発生した負荷とは統合せずに、独立してステージ毎に点線で表示する。
19	その他環境情報	選択記載事項	—	<p>当該製品に関する下記のを記載することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> タイプⅠ又はタイプⅢの環境ラベル ISO 14001認証の取得 国または工業会等の認証・認定・表彰 有害物質の使用状況

PCRレビューの実施

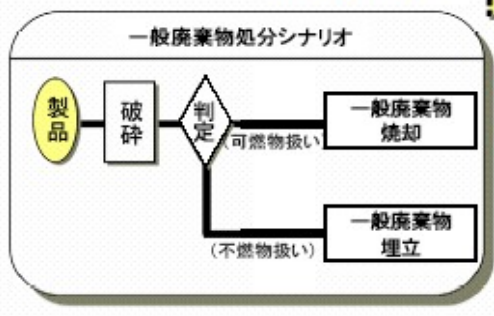
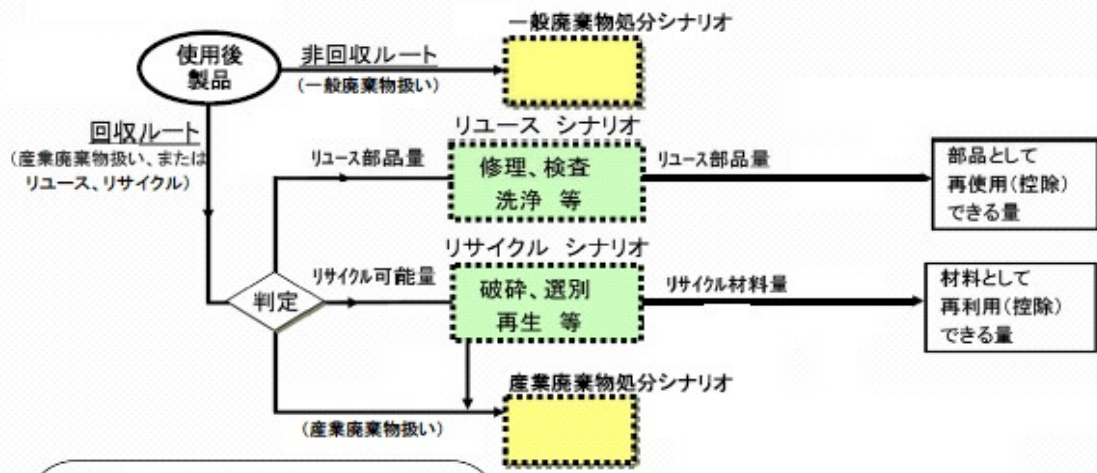
レビュー実施日(制定)	2006/10/18
有効期限	2014/1/31
エコリーフ審議委員会	代表:内山 洋司 所属:筑波大学大学院

本 PCR の改訂等履歴

実施日	訂番	実施内容
2006/10/18	01	制定
2011/2/1		更新



使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ 訂01 2004.03.01



「非回収ルート」：一般廃棄物(市町村責任)として廃棄処理されるとして計上する場合のルート
 「回収ルート」：産業廃棄物(事業者責任)として廃棄処理、またはリユース/リサイクルされるとして計上する場合のルート

製品分類別基準(PCR)制定規程(R-06)の改訂による PCR項目順の変更について

2008年5月1日の規程改訂により、製品分類別基準(PCR)の項目の順番が変更された。本PCRは規定改訂前に制定されたものであるため、以前の項目の順番としている。以下に、規程改訂前後のPCR項目の対応関係を示す。

<規定改定前のPCR項目>

<規定改定後のPCR項目>

No.	規定改定前のPCR項目		No.	規定改定後のPCR項目	関連様式
				【LCA調査の範囲の設定とラベル開示の内容】	
1	製品の定義	→	1	製品の定義	-
2	製品構成要素と評価単位	→	2	製品構成要素と評価単位	-
3	製品ライフサイクルステージ	→	3	製品ライフサイクルステージ	-
		}	4	製品の仕様	PEAD
			5	LCAデータの公開内容	PEAD
			6	新旧製品比較	PEAD
			7	その他エコデザイン関連情報	PEAD
				【システム領域およびデータ収集条件の設定】	
4	原料・部品の構成	→	8	製品の原料・部品構成	内訳DS(製品)、PDS
5	製造ステージにおけるデータ収集条件	→	9	製品製造ステージにおけるモデル化・データ区分等	内訳DS(製造サイト)、PDS
6	物流ステージにおけるデータ収集条件	→	10	物流ステージにおけるモデル化・データ区分等	内訳DS(物流)、PDS
7	使用ステージにおけるデータ収集条件	→	11	使用ステージにおけるモデル化・データ区分等	内訳DS(使用)、PDS
8	廃棄・リサイクルステージにおけるデータ収集条件	→	12	廃棄・リサイクルステージにおけるモデル化・データ区分等	内訳DS(廃棄・リサイクル)、PDS
9	LCI FGD/BGD データ収集/処理	}	13	カットオフルール	内訳DS(各ステージ)、PDS
10	LCIA インパクトカテゴリ		14	収集データの品質要件	内訳DS(各ステージ)、PDS
			15	収集データのアロケーション	内訳DS(各ステージ)、PDS
11	アロケーション	}		【インベントリ計算】	
12	データ収集範囲		16	LCI 計算の考え方	内訳DS(各ステージ)、PEIDS
13	カットオフルール		17	LCI 共通原単位の使用条件	内訳DS(各ステージ)、PEIDS
14	LCI BGD 近似代替	→		【ライフサイクル影響評価(特性化)】	
15	LCI BGD PCR原単位	→	18	LCIA インパクトカテゴリおよび特性化係数の追加	内訳DS(各ステージ)、PEIDS
16	LCIA BGD 特性化係数の追加	→			
17	製品の仕様	}			
18	LCAデータの公開内容				
19	その他環境関連情報				